

弘前大学

2015年 6月号

学園だより

Vol.
184

I 巻頭言

弘前大学長 佐藤 敬 02

II 特集

新学期を迎えて 04

各学部長挨拶

人文学部長

教育学部長

医学部長

医学部保健学科長

理工学部長

農学生命科学部長

新生・在学生の声

人文学部

教育学部

医学部医学科

医学部保健学科

理工学部・理工学研究科

農学生命科学部・農学生命科学研究科

III 研究室紹介 22

IV 海外だより 24

V 新任教員自己紹介 26

VI けいじばんコーナー 28

VII 編集後記 30



弘前大学で 多様な経験を 新入生の皆さんへ



弘前大学長 佐藤 敬

改めて新入生の皆さんに心から歓迎の意を表します。弘前大学は新制大学として再出発してから、今年で66年目になりますが、いつも言っているように、この伝統ある弘前大学の新たな歴史を刻む人たちとなっていた皆さんに感謝したいとも思っています。

私自身も1969年に弘前大学に入学して以来、海外で研究生活を送った2年間を除くと、ずっと弘前大学でお世話になってきました。4月7日の入学式の告辞でも述べた通り、そのことを大変幸いに思っています。私が受験した当時は、弘前大学は国立二期校でしたので、必然的に私の第一志望は東北地方の某一期校でした。私の大学入試結果は一勝一敗に終わったものの、最終的には大きな希望と高い意欲を持って弘前大学に入学したことは間違いありません。最近の学生生活調査の結果を見ても、弘前大学生の約半数は「第一志望ではなかった」と答えているようです。しかし大学入学試験は長い人生の一コマに過ぎず、学問は人生を通して修めなければならぬものであって、大学で終わるわけではありません。もちろん、大学入試は人生を左右しかねない大きなイベントではありますが、その結果の評価など簡単にできるものではありません。私自身も、実際に住んでみて直ぐに、弘前という街の持つ素晴らしさを感じるようになったこと、大学での授業や加入したラグビー部での出来事など、さまざまな新鮮かつ貴重な経験に接したことは今でも忘れられません。そして、文化と歴史の香り高く、素晴らしい自然に恵まれたこの地で生活し、弘前大学で仕事をし、来られたことに心から感謝しています。それは、自ら選択し切り開いてきた道であるとも言えるかもしれませんが、それ以上に、多くの人々の

お世話になってきた結果として、今日の私があると思えるからです。

多くの方々のお世話になってきたことを含めて、この弘前と弘前大学で過ごしてきた年月が私自身をかたちづくってきたのは間違いありません。弘前での生活が、例え4年間で終わったとしても、皆さんにとって、弘前大学で学ぶことが一人ひとりの人となりには大きな影響を与えるはずで、それは“良し悪し”の問題などではなく、それこそが私たち自身であって、その事実から逃れることなど有り得ないと思います。そうであればこそ、皆さんは弘前大学生であることに誇りと自信を持って充実した学生生活を送り、自らをしっかりと育て、やがては力強く社会に貢献する人になって貰いたいと願っています。

今やグローバル化は全ての大学のお題目のように思われるようになってきているようにも思われますが、そうではなく、多くの物事が地球規模で考えられ、実行されるべき世の中にあって、大学だけが現状にとどまることはできません。例え皆さんが地域で活躍する人材に成長したとしても、グローバルな視点を持つことが今後ますます求められます。したがって、弘前大学においても特に教育のグローバル化は重要課題であると、事ある毎に指摘してきました。弘前大学キャンパスのグローバル化が進むことによって、学生諸君が多様な学びの成果を挙げることが期待でき、また、外国留学を経験できれば、さらに貴重な機会を数多く持つことができることとなります。それらの経験は、皆さんの将来がいかなるものになろうとも、大いに役立つことは間違いありません。大学としてもグローバル化を進めるにあたって、しっかりと取り組んでいきたいと考えています。皆さんも、それに応えて積



GAKUENDAYORI

極的にグローバル化の主演となっていただきたいと願っています。例えば、本学独自の取組である「はやぶさカレッジ」は、英語コミュニケーション能力の向上と海外留学を大学が支援するプログラムであり、毎年5人程度の学生が入校し、海外留学を経験しています。また、産業界の支援の下、学生の海外派遣を支援する文部科学省のプロジェクトである「トビタテ！留学JAPAN」に応募する学生も増えてきました。是非とも、これらの貴重な機会を活用するよう、多くの学生が積極的にチャレンジして下さることをお願いします。

もう一つの重要な取組は、弘前市と弘前商工会議所のご支援によって昨年度設立された「学都ひろさき未来基金」です。これは、本学の学生及び教職員が設定した地域課題に関連するテーマについて、地域の自治体・企業等の職員や市民の方々と一緒に海外研修を行うプログラムを支援する基金です。この基金によって、平成26年度には、52名の学生が海外研修に行き、大きな成果を挙げることができました。このような画期的な取組に対して、学生から積極的な提案を行うよう真剣に考えて欲しいと思います。

そこで忘れてならないことは、皆さんには自分自身のアイデンティティーを確実に持ってほしいということです。上にも述べた通り、皆さんが弘前大学生であるという事実は払拭できず、また、皆さんの成長にとって最も大切な一時期をこの地で過ごすことが、それぞれの人格形成に大きな影響を及ぼすのは間違いありません。弘前大学生であることを強く意識し、弘前大学や弘前市、青森県などのことをしっかりと学んで、将来は、さまざまな経験を活かして、自らの人格の基盤を明確に持った人になって貰いたいと願っています。もちろん、住む所と出身大学がすべてでは

ありません。皆さんは、どんな友人を持ち、勉強以外にどんな活動をし、どんな音楽を聴き、どんな本を読むか等々、さまざまな学びの経験を通して、豊かな自己を確立するよう努力することが重要です。そして、できれば短期間であっても、在学中に海外留学を経験し、あるいは本学キャンパス内で留学生をはじめ、多くの友人と交わり、その際には、自分の人となりとその背景を、例えば外国の友人に明確に説明できるような人になって欲しいと思います。

恐らく大学生活においては、これまで以上に皆さん自身による選択の幅が大きくなり、自由度が高くなるのは事実と思われれます。したがって、皆さんがどのような学生生活を送ることになるのかは、皆さん自身の選択と判断に係っています。授業の空き時間も少なからずあることでしょうか。例えば、そんな時には図書館を利用してはどうでしょうか。弘前大学図書館は昨年改修され、随分快適な空間を提供しています。ラーニングコモンズといった自由な勉強ができるスペースも整備されています。例え本の背表紙を眺めるだけでも、あるいは、手に取ってパラパラとめくってみるだけでも、積み重なった時には、大きな成果となることでしょうか。何か新しい発見があるかもしれません。あるいは、イングリッシュ・ラウンジを訪れて、英語コミュニケーションに浸ってみるという選択もあります。学生生活が狭い意味での勉学だけに費やされることを勧めるわけではなく、皆さんには、いろいろな意味で有意義な学生生活を送り、多様な経験をして欲しいと切に願っています。

皆さんの大きな可能性の故に、入学を心からお祝します。

人文学部

過去から学び、未来を見すえ、
現在（いま）を生きる 2015
— 新入生の皆さんへ —

人文学部長 今井 正浩



新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。

人文学部長の今井と申します。専門は西洋古典学(ヨーロッパの文化的源流にあたる西洋古典古代の原典を研究する学問)です。よろしく申し上げます。

弘前大学人文学部は、北東北における人文社会科学系の主要な教育研究拠点の一つとして、人文社会科学分野を志望する学生諸君、海外からの数多くの留学生諸氏をお迎えし、この分野の学習研究のための場を提供してきました。その前身は、大正9年(1920年)に創立され、若き日の太宰治(津島修治)も学んだ官立弘前高等学校であります。昨年、リニューアルした弘前大学附属図書館には、旧制弘前高等学校の在学時に津島修治が受けた講義の自筆のノート類が所蔵されています。そこからは、人文学部にかぎらず、弘前大学が今日までになってきた学問的伝統の重みを実感することができます。また、近年、オープンした弘前大学附属資料館内には、弘前大学にゆかりのある貴重な資料類が展示されていますので、ぜひ足を運んでいただきたいものです。

伝統の重みなどという、懐古趣味のような印象を与えるかもしれません。新入生の皆さんのように、自分自身の将来に対して夢と希望に大きく胸をふくらませている若い人たちにとっては、なおさら、そのように感じられるかもしれません。けれども、人生の節目において過去を振り返ることによって、どれほど多くのものを先人たちから受けついできているかを正しく理解することは、皆さん一人一人が自分自身の未来を着実なかたちで見すえるためにも、とても重要なことであると思います。

学業生活に関しても、同じことが言えるのではないのでしょうか。弘前大学での皆さんの学業生活が数多くの先人たちによって積み上げられた学問的伝統の上に成り

立っているということをきちんと自覚しながら、現在(いま)を生きるということは、皆さん自身の現在の立ち位置をはっきりさせるのに、大いに役立ちます。それはまた、皆さん一人一人の夢をたんに夢にとどめるのではなく、希望をたんに希望のままに終わらせることなく、確実に未来を志向するうえで必要なことであります。

弘前大学人文学部は、来年2016年4月より、人文社会科学部(Faculty of Humanities and Social Sciences)という新しい学部生まれ変わります。わたくしたちが新学部を設置する目的はきわめて明確であります。現在、人文学部が担っている人文社会科学分野の教育研究の実績を最大限に活かしつつ、多様性認識のもとで、地域文化を含めた自国の文化的価値を発信する力、地域課題を含めた現実の課題を解決するための実践力をそなえた、次世代の担い手となりうる人材を育成していくことにあります。新学部の目的は、過去から多くを学び、未来をしっかりと見すえながら、現在(いま)を生きるという、わたくしたち人間本来のあり方に根ざしたものであると考えています。

弘前大学で、皆さんが充実した大学生活を送られることを心から願っております。

大学で何を学ぶか・・・ Team Japanに学ぶ?!

教育学部長 戸塚 学



1年生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学での生活が軌道に乗り、そろそろ弘大生としての自覚がでてきた頃と想像します。そこで、改めて大学生活で何を修得するのか、考えていただきたいと思います。

ご承知のとおり、大学は学問の場であります。大学と小中高等学校との大きな相違点は、「教わる」ことから「自ら学ぶ」ことへ大きくシフトすることにあります。したがって、大学の価値は「学ぶ」ための施設や題材、そして学ぶ意欲を刺激する教師や仲間などの環境が、いかに整っているかにあると思います。弘前大学では、このようなハード面、ソフト面の充実を重要視し、最適な環境を整えています。あとは皆さんがどのようにこれらを自分の将来のために活かし、必要な知識やスキル、考え方を身に付けるかです。

さて、少し将来に目を向けてみましょう。○年後の日本はどうなっているか。私は「人口減少」、「グローバル化」、「情報化」の三つの言葉が頭に浮かびます。

「人口減少」の加速化はすでに始まっており、20年後には現在と比較して約10%の減少が予測されています。人口の減少は少子高齢化をとめない、皆さんの力が社会の支えとなることが今以上に期待されます。そして、「人口減少」よりもはるかに速いスピードで進むのが「グローバル化」や「情報化」ではないでしょうか。

「グローバル化」の進展により、海外の人々の日本への流入が増加し、日本のいたるところにおいて、日本人と外国人が同じ立ち位置で競争することが日常的になってくると考えられます。一方、「情報化」の進展の象徴的なものは、人工知能の発達であり、社会の構造を大きく変えるような可能性すらあります。このような社会環境の変化が、かつてないスピードで進む中、どう対応すべきかが皆さんの課題となります。

ところで、オリンピックのメダリストをはじめサッカーの日本代表チーム、すなわちTeam Japanのような優秀なスポーツ選手のサポート体制をご存知でしょうか。

- ・チームの指揮を執る監督
- ・スケジュール調整したり、練習の環境を整えたりするマネージャー
- ・科学的なデータをもとに筋力やスタミナ、メンタル面からアプローチし、スキルやパフォーマンスを向上させるコーチ
- ・食事を始め、健康やコンディションを支えるスタッフ
- ・選手に適したシューズやウエアを提供するメーカー

これらを構成するスタッフは必ずしも日本人とは限らず、それぞれ異なる専門分野の人たちが、一つの目標のために連携・協働して取り組み、それらが一体化してこそ、金メダルが獲得できたり、優秀な成績を収めたりすることができるのです。私は、このようなスポーツ選手のサポート体制に次世代の社会に対応するヒントがあると考えます。すなわち、専門が異なる人たちが、それぞれの多様性を認め、力を合わせ、一体化することだと思っています。

そこで、皆さんが目指す方向性として、今後はまず多様性を理解するために教養教育等で幅広い知識を修得してください。さらに、その上の段階として、自分が目指すフィールドの専門性を高めてください。幅広い知識は、自分以外の人を認め、他者と協働して物事に取り組む礎になります。一方、それぞれの持つ専門性は、人と人との関係において、自分の役割を明確にするためのスキルになります。そうして培った幅広い見識と確かな専門性を糧に、様々な分野の人々と協働し、一体化し、変化する社会へ対応していったらいいと思います。

これからの4年間の弘前大学での学生生活、自らの行動や考えにより如何様にも変化します。変化する自分を楽しまつつ、自分なりの生き方を創造してください。

昨今の弘大生

医学部長 中路 重之



古代エジプトのパピルスにも“近頃の若い奴は”という意味の文章があるようですが、それとは逆に、うらやましいくらいに元気な最近の弘大生を紹介したいと思います。

私が学生の頃（昭和54年本学卒）の弘前大学の学園祭（今は総合文化祭と言います）は学生の手作りでした。ただ、そのぶん市民の皆さんの参加はわずかで、それは寂しいものでした。今は違います。学生と職員を含めての本当の総合文化祭になった結果、昨年の参加者は1万人近くになりました。祭りの最中に文京キャンパス行くと、午前中からまさに“ごったがえして”います。ねぶた祭りや桜祭りには比べるべくもありませんが、いまや弘前を代表する行事になったと言えるでしょう。おでんや、焼きそばなどの屋台がズラリと並び、学生の呼び声と通行人の歓声で活気に満ち満ちています。

昨年の総合文化祭で、私は市民向けの講演を担当しました。講演会場は市民の方で溢れました。数年前にも講演を受け持ったことがあります。その日はたった10人くらいの皆さんの前で寂しく講演したことを思い出しました。大げさですが、隔世の感があります。

オープンキャンパスは、全校を上げて盛大に実施しています。近い将来の弘前大学進学を見据えて、東北・北海道からたくさんの高校生が集まります。当日は、模擬講義、実験・実習体験、研究室開放、個別相談コーナーなど大学の雰囲気を楽しめる催しが数多くあり、参加者は未来の学生生活を思い描きながら、キャンパスの雰囲気を楽しめるようになっていきます。もてなす側には現役の学生もいます。年々参加者が増え昨年は6,000名を超えました。

医学科の場合は2月の初めに仙台市で医師国家試験が

あります。6年生（受験生）は3台のバスで朝9時に旧東奥義塾跡地（今は市立観光館隣り）の広場から出発します。毎年一番寒い時期です。広場には3台の大型バスがあり、そこで受験生が乗り込みます。驚くのは、壮行のために集まった在校生の数です。全員が集まったかと思ふばかりのラッシュ状態になっています。熱気ムンムンで、とくに水泳部の諸君は上半身裸で、気合いを送ります。私も3台のバスに入りそれぞれエールを送ります。私の時代にはない「いいもの」です。

弘前大学は、部活が非常に盛んです。なかでも体育系の部活が盛んで、医学科の場合は東日本医科学生総合体育大会（東医体）という東日本の大会で常に総合点で上位を占めています。部活の良さは、なんといっても人間関係です。まだまだ発展途上にある若者にとって、練習の厳しさや、試合での緊張感、そして何よりも部活の同輩先輩後輩、それらは本当に“宝物”です。卒業してからもその関係性は続きます。

部活もそうですが、今の学生諸君には底知れない活気と元気を感じます。自身が年老いたせいもあるのでしょうか。まばゆいばかりの若さです。あるいはひょっとして、私自身も学生時代は、元気で大いに楽しんでたのかもしれませんが…（残念なことに忘れてしまいました）。

人は何のために生きるのか、考えたことがありますか？ 難しく考えなくとも、「楽しむため」しかも「深く楽しむため」に人生はあるのだと思います。大学生活というのは、「楽しむため」の時期であり、また「深く楽しむため」に自分を育てる時期なのだと思います。

新入生の皆さん！どうかこのように元気ある弘前大学のキャンパスライフを楽しんでください。楽しんでこそその人生です。

新入学生のみなさんへ

医学部保健学科長 木田 和幸



新入学生の皆さん、入学おめでとうございます。皆さんがここに至るまでには、ご両親、兄弟、友人、先生や関係者から多くの支援を受けたことも改めて思い出すことと思います。これからは新たな出発として、更なる目標に向かって前進することになります。

皆さんは、中学生、高校生、あるいはもっと前からでしょうか、このハードルを乗り越えるために平日頃自分に言い聞かせてきたことがあると思います。入学した皆さんの一部には、この言い聞かせてきたことが必要なくなるのではないのでしょうか。長かったこれまでの気持ちの拘束感は少し減弱したのではないのでしょうか。そのようなやや開放的な時間は瞬く間に過ぎ、既に大学での講義等が開始され、大学生としての生活を開始していると思います。これからの学生生活は、楽しい時、苦しい時などいろいろな場面に遭遇すると思います。その中で、時には前に向かって走ることを止め、改めて周りをじっくりと眺めてみたり、後ろを振り返ることも必要となる場合があるでしょう。いつも走っていると走っている自分に気づかなくなることもあるでしょう。足を止めることにより周りの動きを、一層はっきりと感じることが出来ると思います。後ろを振り返ると前しか見ていなかった自分を改めて異なった視点から感じ取れることもあります。立ち止まることを躊躇する必要はありません。自分の位置や状態を確かめながら、自分に適した速度で進んでいきましょう。学生としては教養を深め、専門的知識技術の修得を目指すことが基本となりますが、これが全てではありません。自分の興味のあるいろいろな場面に参加することにより、いろいろな人と出会うことと思います。また、それによりいろいろな形での繋がりが生

じてきます。このことは後に大きな存在として浮かび上がってくる新たな友達の形成へと発展していくものと思われます。弘前大学に入学した皆さんには、学生として充実した本来の学生生活を送って頂きたいと希望しております。

弘前という地は四季を通して、弘前さくらまつり、弘前ねぶたまつり、弘前城菊と紅葉まつり、弘前城雪灯籠まつりが開催され、岩木山を背にゆったりとした時の流れを感じさせるところです。その周辺の多くの人々は弘前大学の「学生さん」を見つめており、「学生さん」とのつきあいを熟知している方ばかりです。このような状況の中に存在する弘前大学で充実した満足できる学生生活を送り、更なる新しい自分の目標を考えてみては如何でしょうか。

保健学科、保健学研究科は、保健医療の一端を担いながら社会で活躍し、社会に貢献しようとする皆さんの入学を心から歓迎いたします。

理工学部

新入生のみなさんへ ～ワイングラスの中の世界～

理工学部長 宮永 崇史



皆さん、弘前大学理工学部にご入学おめでとうございます。私は皆さんの元気な姿とお会いできるのを心待ちにしておりました。今、皆さんは大いなる希望と多少の不安を胸に、弘前大学のキャンパスに立っているのではないのでしょうか。皆さんを見ていますと、私も36年前の自分の姿を思い出します。

私はとある城下町にある大学の工学系化学科に入学しました。その後工学系物理学、理学系化学、理学系物理学と進んできました。このように個々の場面で学問分野を変更することを厭わなかったのも、学生時代に出会った一つの本がきっかけかもしれません。それは「ファインマン物理学」という物理学の教科書です。1961年から2年間にわたり、ノーベル賞受賞者のR.P.ファインマン教授がカリフォルニア工科大学の1年生のために全精力を傾けた講義の内容を同僚や関係者がそのまま教科書にまとめたものです。この本は当時から世界中の大学で教科書として使われ、出版から50年以上を経過した今でも売れ続けるという伝説の教科書です。「物理学」は理工学部で学ぶ多くの人にとっては重要な基礎科目ですので、皆さんもぜひ一度この本を手にとって中をのぞいてみてください。物理学の教科書でありながら、その中に次のような1節があります：

かつて「一杯のワインの中には全宇宙がある」といった詩人がいた。詩人というものは正確に物事を表現するわけではないので、これが本当に意味するところは不明だ。だが、現にワインの注がれたグラスをじっくり観察するとその中に全宇宙が存在することも事実である。一杯のワインの中には物理的に多くのことが存在する。例えば、グラスをゆすると風や天候の影響を受けつつワインは蒸発してゆく。グラスの中には反射光があり、そして原子が存在する。ガラスは地球の岩石が原料であり、

その成分から宇宙の年齢や星の進化を知ることができる。ワインの中にはどんな化学物質があるのだろうか？(中略)

クラレット（ボルドー赤ワインのひとつ）のなんと生き生きとしたことよ！それは、私を魅了する。ちっぽけな人間が、この一杯のワイン、すなわちこの宇宙を、自分たちの都合で物理学、化学、生物学、地学、天文学、心理学などの学問分野に分けたとしても、自然はそんなことは関知しない。だから、このワイン（宇宙）が何のためにあるかに思いを馳せ、これまでの分類なんかはすべてご破算にしてしまおう。（下線は筆者による）

面白いことに、ファインマンより50年ほど前に活躍した寺田寅彦という日本の物理学者の随筆の中にも「茶碗の湯」という、その中に物理現象を見出す同様の話があります。彼はこのように身の周りの現象に興味を持ち続け、後年は防災教育についても警鐘をならしています。新しい科学的知識はどんどん増え、学問は細分化され、総合大学といえども多くのことを学ぶことはなかなか難しい時代になってきました。しかし、ぜひ皆さんは身の周りの科学現象を含めたいろいろなことに興味を持ち、自分の学科の専門分野を幹としつつも、その周辺の学問を枝葉として大きく茂らせるように学習してみてください。そうすることによって将来はさらに幅広い人間に成長してゆくでしょう。

そして2年後、成熟した皆さんが二十歳を迎えた日に、ともにワインで乾杯しましょう！

新入生への期待

農学生命科学部長 佐々木長市



新入生の皆さん、入学おめでとうございます。日本一の桜とりんごの街弘前に皆さんを受け入れることが出来て感謝しています。地球温暖化や少子高齢化など、これまでの経験値を超える現象が発生しております。これまでの経験のみでは、対応しきれない時代を皆さんは活躍の場とすることになります。こうした将来を見ずえて、入学に際し皆さんへの三つの期待を述べたいと思います。

一つ目は、専門知識を身につけた職業人としての基礎を築くことを期待しております。

これから4年間あるいは大学院を含めた6年間、農学及び生命科学の専門知識を学ぶことになります。この知識を基に、各専門分野のスペシャリストとして社会で活躍することになります。このための基本的な専門知識の修得が開始されます。学部では専門の基礎的知識を中心に学びます。大学院ではもっと深く学ぶことになります。基礎の重要性は多くの先人の指摘することの一つです。慣れない専門用語に戸惑うことも多いでしょうが、努力なしには何事も成し遂げられないと思います。果敢な挑戦を期待しております。先生達も皆さんの期待に応えられるよう創意工夫をしております。

二つ目は、かけがえない友人を一人でも多くえられることを期待しております。特に、一人暮らしを始めた学生は、これまでと違い一人で食事を取る機会が増え、家族のありがたみを感じていることでしょう。親しい友人ができて、一緒に食事をする時や病気で寝込んだりしたときに訪ねてきてくれる時には、友人のありがたみや大切さをしみじみと感じると思います。同様に、家族も寂しさを募らせていると思います。短い電話でも親孝行になりますので時々連絡してほしいと思います。大学の友人は、高校と違い専門的な話ができる友人となります。

仕事に就いたときに大いに助かります。また、弘前大学は総合大学ですので、クラブなどを通して異なる学部の友人も作れます。私も、馬術部の友人や同じクラスの友人と困ったときに気軽に電話で話し合えることのありがたみを感じております。同じ時代を過ごした友人は、共通の経験が多く年代の異なる友人とは又ひと味異なります。

三つ目は、心に残る良い本を読むことあるいは出会えることを期待しております。できれば同じ本を3回は読むことを勧めます。同じ本を読んでも10年後は感想や味わいが変わります。津軽は、文豪太宰治の生まれたところです。農学生命科学部附属の金木農場は「津軽」という小説にも出ている場所にあります。昨年大学の図書館もリニューアルされましたので、是非利用することを勧めます。

卒業時の学生の感想などを読むと、あっという間でしたという言葉がかなりの比率を占めております。入学時の夢あるいは初心を忘れず、目的を定めて邁進してください。最後に、両親やこれまで支えてくれた人に感謝をしてほしいと思います。

「たくさんの良い思い出」と「良い出会い」に「ありがとう」といえる4年間あるいは6年間であることを期待しております。

人文学部

新入生



伊藤 久康
人文学部
現代社会課程 1年

他学部生との交流を通して

私は、第一志望である弘前大学に入学することができ、学習や生活ともに、毎日充実した大学生活を送れています。そのような中、私が、大学生活を送る上で最も大切にしているのは、「他学部生との交流」です。弘前大学は総合大学なので、人文学部の仲間との交流にとどまらず、他学部生との交流を深めることで、多角的な見方、考え方が養えると思ったからです。

実際に、サークル活動では、学祭本部実行委員会と弘大ラジオサークルに所属しています。活動を通して感じたのは、講義だけでは学べないことが学べるということです。先輩方との協力、不特定多数の方々の目線に立って物事を企画することで、様々な人々の考え方、アイディアを知ることができました。そのような活動を通して学んだことは、学習面にも活かせると考えています。

私は、百貨店などの小売業か銀行などの金融機関に就職することが将来の夢です。どちらも、様々なお客様を相手とする業種であることに変わりはありません。この4年間の大学生活の中で、しっかりと学習に取り組みつつ、サークル活動においてあらゆる方々との交流を通し、将来に活かしていけるように頑張っていきたいと思っています。

対馬 梨季

人文学部
人間文化課程 1年

ついに大学生

自宅から弘前に通い始めて5年目になりました。というのも、私は高校、予備校時代も弘前に通学していたからです。そして、やっとの思いで入学した大学では、毎日が驚きの連続です。まず、人の多さに圧倒されてしまいました。新しくできた友人達と講義室あるいは食堂に入った瞬間、あまりの人数に唖然となりました。また、高校までとは全く異なる授業スタイルなど、4月は期待と不安、そして驚きでいっぱいでした。

最近は、サークルに入ったり、一人暮らしの友達の家遊びに行ったりと、なかなか楽しくなってきました。それと同時に私は、「この自由な時間をうまく使えるようになるう」と思いました。ダラダラと過ごしたり遊び続けているとすぐに4年が経ってしまう気がしたからです。しかし、勉強だけ頑張っても、人として成長できません。

私は、民俗学、考古学、美術などに興味があるので、文化財論コースに進みたいと思っています。自分で決めた道をしっかり歩むためにも、入学時に感じた「弘前大学に進学できた嬉しさと今まで支えてくれた人々への感謝の気持ち」を忘れずに、悔いの残らないような大学生活を送っていきたいと思っています。

大学生となって



竹内 麻友
人文学部
経済経営課程 1年

弘前大学に入学してから約一ヶ月半が経ちました。新生活に慣れるのに精一杯で、あっという間に過ぎたような気がします。

私はこの一ヶ月半を通して実感したことがあります。それは、自己管理の難しさです。高校までとは異なり、時間割を自由に組める大学では、その日一日をどのように過ごすかはすべて自分にかかっています。時間を有効に使っても無駄にしても自己責任であるわけです。しかし、そうは言っても不規則な生活においては、気が緩みがちになり怠けたい気持ちが出てきてしまいます。そこで大切となるのは、何のために大学に入ったのか初心を忘れずにいるということだと思います。私の場合は、4年間の大学生活を通して経済に関する専門的知識を修得することはもちろん、それを基に社会問題を分析・判断する能力を養い、それから語学力を磨くことが目標です。そのために、日々の授業をおろそかにせず、また資格取得など自主的な努力をしていきたいです。

最後に、さまざまな面で支えてもらっている家族や友人など周りの人たちに感謝の気持ちを忘れずに、楽しい大学生活を送りたいと思っています。



矢口 周
人文学部
人間文化課程3年

書を捨てず、町へ出よう

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境に慣れ、ここでの新しい生活を楽しんでいるでしょうか。

さて『書を捨てよ、町へ出よう』は弘前出身の歌人・寺山修司氏の作品です。皆さんの中には長く辛い受験勉強を乗り越え「もう勉強はたくさん、大学に入ったから思う存分遊ぼう」と考えている人もいることと思います。まさしく「書を捨て、町へ出よう」としているわけです。また優しい先輩たちは「サークルとかバイトとか今しかできないことを」と教えてくれるでしょう。それらの活動から得るものは大きいですし、何よりそこでは初めて経験することが多く、楽しいと感じるのは当然です。しかし、それらのために別のものを捨ててしまうのはもったいないと思いませんか。学問に励む、普段読まないような本を読む、一見退屈で無意味に思えるかもしれないことにも、ぜひ全力で取り組んでみてください。

「二兎を追う者は一兎をも得ず」という諺がありますが、「二兎」を得る機会があるのは「二兎」を追う者だけです。4年間の大学生活、長いと感じるか短いと感じるかは人それぞれですが、欲しいもの、やりたいことを全て追いかけてみてはどうでしょう。



鈴木 宏明
人文学部
経済経営課程3年

にメッセージを送ります。

大学生活は非常に時間が早く過ぎると感じます。大学は4年間、ないし6年間ですが、高校や中学校の3年間より早く感じると思います。なので、大学在学中の時間を大切に使うといいです。私が考える大切に使うというのは、自分のやりたいことをとにかく実践する、ということです。経済的、時間的、総合的に見て本当に自分のやりたいことを突き詰められるのは大学生活中です。とにかく行動してください。

また、人間関係もぜひ大切にしてください。人との出会いは、何か意味があり、出会ったことだと私は思っております。学科の仲間、サークルの仲間、教授、様々な人に会います。その出会いを何か意味のあるものだと捉え、一人ひとりに真摯に向き合ってみてください。考え方、将来の夢、何か自分の中で変わることがきっとあるはず。私は、そうでした。それはとても大きな財産となります。

時間を大切に、とにかく行動すること、人との縁、というのを大切に大学生活を送ってください。皆さんの大学生活が素晴らしいものになることを祈っております。

新入生へ

今野 琢也
人文学部
現代社会課程3年

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。弘前大学での生活はいかがでしょう。

大学生活には、魅力的なことがたくさんあります。部活やサークルに打ち込むもよし、アルバイトで社会にふれてみるもよし、勉強や読書で自分を高めるもよしです。これらをすべて自分の好きなように選択できるのが大学生活の特徴だと思います。

しかし、好きに選択できるからといって、楽なほうばかりを選んでいては、貴重な時間を無駄にしてしまいます。常に自分の行動に意味を見出し、自らを律して、これからの大学生活を送っていただきたいです。

さて、これからの大学生活では、素晴らしい人との出会いがたくさんあり、多くの刺激を受けることになると思います。その中で皆さんにしてもらいたいのは、そういった人からの刺激を無駄にせず、しっかりと自分の糧にして、自分の将来に活かすということです。素晴らしい人間と関わる中で、自分が将来何をしたいのか、何をすべきなのかを見出して、この大学での時間を、その目標に向かって努力を重ねる時間にしてほしいと思います。

これからの皆さんの大学生活がすてきなものになるように祈っています。

新たな環境で

私は、現在弘前大学人文学部の3年生です。先に大学に入学した先輩として、恐縮ですが皆さん

教育学部



鹿俣 顕典

教育学部
学校教育教員養成課程 1年

「ワクワクを伝える」

新たに始まる大学生活に胸を高鳴らせ、ここ弘前にやってきましたから早くも一か月が経ちました。入学当初抱いていた、一人暮らしや友達づくりへの不安は、この一か月で出会った温かい人たちのおかげで次第に薄れていき、これからは弘大生として生活していくのだと強く自覚するようになりました。

私は小学生の頃、地元の大学と教育委員会が連携して開催していた科学実験教室に参加していました。仕組みもよく分からず参加していた私ですが、今回はどんな不思議な実験ができるのかと、毎回ワクワクしながら通っていたのを思い出します。私が科学に興味を持ったきっかけです。その後も理科、特に生物分野に面白さを感じ、次第にその面白さを伝えていける理科の教師になることを目指すようになりました。入学して、ここ弘前大学には子供たちや地域の方々と触れ合う機会が多く設けられていることを知りました。大学生となった今、こうした実習に多く参加し、私が小学生の頃感じたワクワクを、今度は今の小中学生にも感じてもらいたいと思います。そして、科学の進歩が著しい現代で活躍できる生徒を育てられる教師になれるよう、同じ志を持った仲間と共に学んでいきたいと思っています。



海藤 侑里子

教育学部
学校教育教員養成課程 1年

しかし、夢は変わった。自分の将来目標とする職業と自分の果たしたい夢は別物だと思うようになったからだ。

小さい頃は、自分のなりたい職業が自分の夢だと思っていた。恥ずかしながら、最近までそう思っていた。しかし、それでは本当に自分がしたいことはずるずるとできないままだ。ようやく、それに気が付いた。確かに、先生になることが夢であれば、先生になれるかもしれない。しかし、いざ先生になったら自分の夢がなくなってしまう。なくなったらその時考えればいいという考えでは、この4年間は無為なものになってしまうだろう。先生になったその先を考えて自分のやりたいことを明確にすることで、4年間は意味のあるものとなるのではないかと。

夢は自分が生涯したいこと、成し遂げたいことだと思う。なりたい職業はその夢を成し遂げるための単なる手段でしかない、そう考えるようになったのだ。

私の夢は子供の将来を輝かせること。この夢を実現させるために私は先生になるという手段を選んだ。私はこの4年間に限らず、これからもずっとこの夢を持ち続ける。そして、この4年間で必ず実りのあるものにする。



附田 ひかりエイプリル

教育学部
学校教育教員養成課程 1年

弘前大学に入学して

弘前大学に入学して早一ヶ月。長くも短くも感じるこの一ヶ月間で私はたくさんのことを経験し、感じてきました。三沢から来た私にとって弘前という街はとても大きな存在に見え、新しい環境で生活していくという事に最初は不安を感じていました。しかし、この大学で出会った先輩方や先生方、そして何より友達と呼べる人たちに会えて私は本当にこの大学に来て良かったと思っています。

新たな生活が始まりそれほど日数は経っていませんが、自分の好きな美術を専門的に学びながら職についても勉強していけるこの環境はとても素晴らしいと既に実感しています。大学は今までは違い自発的に行動しなければ何も始まらない場所です。高校までのように待っていれば誰かがやってくれるという考えはもう通用しないと思っています。だからこそ私は、この弘前大学で過ごす四年間を自分のために有利に使い、未来の可能性を少しでも広げることに関心を持っていきたいと思います。また、勉学だけでなく大学生活でしか経験できないこともたくさん体験して、充実した四年間を過ごしたいと思っています。

これから

私は、小さいころから先生になるのが夢だった。先生になりたいという思いは、今尚変わらない。

在学生



板垣 柚志

教育学部
学校教育教員養成課程3年

人との関わり

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れてきたころでしょうか？楽しんでいきますか？

入学してから時間はあっという間に過ぎていきます。私も気づけば3年生になっていました。そこで私が伝えたいことは、「人との関わりを大切にしてください」ということです。大学という新しい環境ではたくさんの人々に出会うことができ、授業やサークル・部活動、アルバイトなど人と関わる機会も多くあります。しかし、その機会を活かすかどうかは貴方次第です。積極的に関わりを持っていけばそこから新しい考えを学んだり知識を得たりすることができ、何よりも毎日楽しく充実した生活を送ることができます。また、関わっていく中で自然とコミュニケーション能力の向上にも繋がり、他人と向き合うことで自分と向き合うことも可能になるのではないのでしょうか。

大学生になって自由な時間が増えるといっても、もちろん勉強はしなければなりません。しかし、楽しく充実した大学生活を作り上げるのは貴方自身です。今しかできないこともたくさんあると思います。悔いの残らないよう、自分の個性を大切にしながらたくさんの人と関わって欲しいです。今という時間を大切に、大学生活を楽しんでください。



杉本 舞子

教育学部
養護教諭養成課程3年

様々な経験を

新入生の皆さん、弘前大学へのご入学おめでとうございます。今までと大きく環境が変わったと思いますが、大学生活にはもう慣れたのでしょうか？

大学生になると、学校の講義やサークル、バイトなどを全て自分の意思で決めることができ、選択の幅が大きく広がり自由の幅も広がったと考えることができるでしょう。その自由を嬉しく思うこともあれば、家族や先生の手助けが恋しくなり不安になることも多々あると思います。大学での勉強は自己責任ですし、実家を離れて一人暮らしを始めた人は日々の家事で戸惑うこともあるかもしれません。しかしそのような環境の中で、責任感や自覚が生まれます。成功すれば自信につながり、失敗は貴重な学習となります。失敗を恐れずに、積極的に活動していくことが自身の成長につながります。もちろん一人で全てを抱え込むのではなく、友達と助け合い息抜きをすることも忘れてください。慣れるまで少し大変かもしれませんが、自由な時間を自分のために使える大学生活はとても楽しいですよ。

大学は学問の他にも様々なことを学び、経験することができる場所です。皆さんが弘前大学で大きな学びを得ながら、充実した学校生活を送れることを願っています。

充実した大学生活を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。入学してから1か月がたちますが大学生活にも慣れてきたのでしょうか。私は大学生活を送っていてよかったと思うことが二つあります。

一つ目は、出身が違う友達がたくさんできることです。様々な方言や伝統文化や伝統食などに触れることができるので、私が知らなかったことを知ることができて、驚くことや意外なことがたくさんありとても楽しいです。皆さんもぜひ出身が違う友達がたくさん作って、新たな発見をしてみてください。

二つ目は、自分のやりたいことができることです。空きコマの時間や、夏休み、春休みなど自由に使える時間がたくさんあります。私は、学校での授業の他に保育士の資格をとるため勉強したり、長期休暇を利用して友達と旅行に行ったり、サークル活動やアルバイトをしています。時間はたくさんあるので、目標をもって行動することで自分にプラスになって帰ってくるような気がします。4年間をただ何となく過ごすのではなく、興味がある事ややってみたい事に積極的に挑戦してみてください。

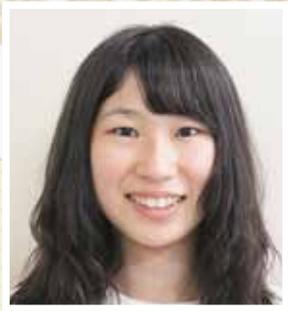
最後に、先輩や後輩、友達、先生、バイト先の人などたくさんの人と関わり、自分の考え方や将来への視野を広げていってください。そして、親や家族や周りの人に対する感謝の気持ちを忘れずに、4年間を過ごして欲しいと思います。



小松 茉央

教育学部
学校教育教員養成課程3年

医学部医学科



垣内 章江
医学部医学科 1年

弘前に来て

新入生の皆さん、入学おめでとうございます。私は今年、弘前大学医学部医学科に入学した垣内章江です。4月にここ弘前大学に入学してからはや一カ月以上が経ちました。私は大学進学を機に地元大阪から弘前に来ました。期待と不安がいっぱいだった新生活がスタートして、大阪から弘前という大きな環境の変化にも徐々に慣れてきました。同期や部活動の先輩方のサポートのおかげでとても有意義な日々を過ごしています。そして、先日私は人生初めてのさくらまつりに言葉失うほど感動し、改めて弘前に来て良かったと思いました。何度も足を運んだのですが、昼と夜でも違った姿をみせ、日々徐々に変化していく弘前の桜は何度見ても飽きません。新入生の皆さんの中には弘前出身の方や私のように県外から来た人もいます。新入生の皆さんが弘前に来て良かったと思っていると嬉しいです。私は、今、新しい仲間が出来て、こんなに楽しくていいかなってぐらい毎日が楽しいです。周りの人に恵まれているなあと心底感じています。これから6年という長い期間勉強はもちろんのこと、色々な楽しいことやときには辛いことをここ弘前で経験していく中で人間的に大きく成長していきたいです。

入学して・・・

西廣 拓海
医学部医学科 1年

困難な大学受験を終えて、ホッとしたあの時のことを弘前大学に入学して約2か月になった今でもよく思い出します。弘前に来たばかりの頃は、色々わからないことばかりで不安もありましたが、先生方や先輩方、その他の方々に助けられてここまで楽しく生活することができています。また、寮での生活をしていて、これまでの実家暮らしでは両親にとっても助けられていたのだともよく感じます。弘前は雪がよく降り大変な環境ではありますが、春の弘前公園の桜まつりや夏のねぶた祭りなどとても楽しい行事があります。また、弘前の方々はとても優しい方が多く、治安も良いので住み心地のいい場所なのではないかと私は思っています。

大学では高校と違い、予め時間割が決められているわけではなく、自ら履修する講義を選択しなければなりません。また、一コマが90分なので集中力を保つのがとても大変です。ですが、自分の興味のある授業を高校よりも長い時間受けられることはとても良いことだと思います。また、私はせっかく弘前に来たのだと思いきやスキー部に入ることになりました。部活は勉強や自由の時間を減らしてしまうのかもしれませんが、上下のつながりを深めることができることはとてもいいことであると思っています。

最後に医学科は六年間あるので、自分の足りないところを見つけていきたいと思っています。医師には必要なことが多すぎるほどであると思うので、もっとたくさんのことを学んで、自分が理想とする医師像に少しでも近づけたらと思っています。



木村 紗也佳
医学部医学科 1年

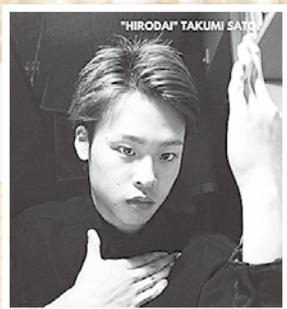
春の訪れ

澄み渡る青空の下、大きく重く響き渡る和太鼓の音を体中に感じ、緊張と喜びを胸に抱きながら、念願の弘前大学医学部医学科へ入学しました。日本全国の注目の集まる弘前さくらまつりを初めて経験し、空を埋め尽くすように満開に咲く桜の花の美しさに春の訪れを感じ、これから始まる大学生活への期待の気持ちで満ち溢れています。晴れて弘前大学の一員となり、尊敬する多くの先生方、先輩方、友人との素敵な出会いがありました。大学での講義の内容は、初めて見聞きするものも多く、新しい知識を得ることにやりがいを感じています。医学部のある本町キャンパスでの講義を受ける中で、医師になる私の夢が、徐々に実現し始めている事に喜びを感じ、患者さんとその家族の気持ちに寄り添いながら、身体だけでなく心のケアもできる医師になりたいという思いがなお一層強くなりました。そのために大学のカリキュラムに励むことはもちろん、多くの本を読み、様々な病院へ見学に伺って勉強し、教養を深めていきたいと思っています。そして少しずつではありますが、お世話になっている方々への感謝の気持ちをこめて恩返しをしていきたいです。これから6年間、よろしく願いいたします。

佐藤 直樹

入学しての決意 医学部医学科 1年

今回は一年生としての今後の展望について語らせて頂きたいと思います。私は今何より大切なのは、「夢中」でいることであると考えます。「夢中」とは、「夢」の「中」にあるということですから、つまりは自分の夢に向かって進んでいる状態のことだと私は考えます。そして「夢」とは、自分の目標、やりたい事であり、私だけでなく、このたび入学させて頂いた者の多くが、沢山の夢を各々抱えてここ弘前にやってきました。これから学生生活をし、沢山の人や機会に出会って、集団やら何某かの大きな流れ、風潮にさらされていく中でも、その自分自身の夢をいつまでも忘れないで志高く生きていきたいと考えている次第でございます。さて、ここで少し私の夢についてお話を致します。私の夢としましては、一つには「人間的に成長する」ということがあります。医学生としてだけでなく、一人の人間としての高みを目指すことをまず念頭に置いておきたいのです。そこでその為に、まずは挑戦を繰り返し多くの経験を積みたくて考えております。最後になりますが、これまで、そしてこれから私を支えてくださる方々に無上の感謝を申し上げます。ご精読ありがとうございました。



佐藤 匠
医学部医学科2年

新入生のみなさんへ

こんにちは、1年生のみなさん合格おめでとうございます！これからどうぞよろしくお祈りします。さて、1年生のみなさんはこの一ヶ月ちょっとの時間をどのように過ごしたのでしょうか？そろそろ大学生活にもぼちぼち慣れてきた頃でしょうか。

さて、僕が新入生に伝えたいことは、人との繋がりを大切にしてほしいということです。学科の仲間はこれから6年間ずっと同じ講義を受けて、試験を乗り越えていく同士たちです。また、医学科では1年生で21世紀科目の課程が終わってしまうので、他学部の人と知り合いになれるチャンスがあるのも今だけかもしれません。知らない人と話すのは緊張すると思いますが、積極的にいろいろな所に出かけて行って、友達をたくさん作ってほしいと思います。

もう一つ言いたいことは、医学科の学生にとって一番まとまった時間を確保できるのが1年生の間だということです。大学生になれば自分の責任で行動できることが増えてきます。やりたいことは失敗を恐れずどんどん挑戦してほしいと思います！でも、くれぐれもひとに迷惑をかけない程度に、ほどほどに...笑。というわけで、1年生のみなさんが学生生活を精一杯楽しめるよう心から願っております。

萩野 哲広

医学部医学科2年

新入生へ

新入生の皆様、弘前大学へのご入学おめでとうございます。学校生活には慣れてきたでしょうか？私自身はというと大学生生活を1年過ごしてきましたが、全く慣れていません。早起きや自炊、洗濯、これらを完璧にこなせていたらもはや大学生でなく主婦ではないかと感じてしまいます。そして「1年生」と聞くと私はある歌詞を思い出します。「1年生になったら友達100人できるかな～100人で食べたいな～」あれ？足りなくない？と毎回思います。1年生は全員で仲良くしてください。

話がそれました。私が新入生に伝えたいことは1年間だけは「よく遊びよく遊べ」ということです。特に医学科に入ると2年以降は「よく学びよく学べ（さもないと恐ろしいことになる）」という感じです。悔いのないくらい遊んでください。この原稿を書いている今もテスト直前なので焦っています。皆さんには私のようにでなく計画性のある人間になってほしいですね。勉強はもちろん、部活やサークル、バイト、遊びなど多くのことにも挑戦してほしいです。私の場合は部活、バイト、遊び、睡眠でした。

拙い文章を綴ってきましたが、私の好きな言葉（日々の私への戒めです。）を皆様に伝えて最後までさせていただきます。Conquer yourself rather than the world! あまり己惚れ過ぎず、節度ある学校生活を送ってください。

各務 萌

医学部医学科2年

去年の私に伝えたい事

1年生のみなさん。改めてご入学おめでとうございます。そろそろ一人暮らしや大学生活にも慣れてきたころでしょうか。弘前には密かに素敵なカフェや美味しいご飯屋さんがたくさんあります。友達と色々なところを巡ってみるのもいいかもしれません。さて、今の自分から一年前の自分に言いたい事を考えるとただ一つです。思いっきり自己投資をして欲しいという事です。まとまってたくさん遊ぶ時間が取れるのもおそらく1年生の時くらいだと思います。旅行したり趣味に没頭したり友達と集まったり、今楽しんでおきたいことをたくさんやって下さい。また交流の輪を広げたくさんの友達をつくったり、色々な先輩と良い関係を築いておくことも重要です。これからの長いようで短い大学生活では友達に助け助けられる場面が多くあると思います。そして最後に、いくら先輩に遊ば遊べと言われても遊びすぎて本来の目的を見失わないようにだけ気を付けてください。メリハリも重要です。そして特に女子のみなさんは、私みたいに空きコマに甘いものを食べすぎて太ってしまわないように気を付けてください。

新入生

医学部保健学科



泉 ひかり
医学部保健学科
看護学専攻1年

弘前大学の一員になったことについて

私は四月に入学式を迎え、弘前大学の一員となりました。入学しておよそ一か月が経ちますが、大学生活にも徐々に慣れ、楽しさを感じ始めています。

私には自分自身で考える理想の看護師像や看護師として働くうえで成し遂げたいことなどがあります。私自身がこのことをより明確にし、実現へと近づけるためには、専門的な知識や能力はもちろんですが積極性というのも必要になってくると考えます。現代の医療は常に進化しています。資格取得後も最新の医療の知識を吸収するという積極的な姿勢が必要であると考えます。また、広い視野をもち考える機会も多いと思うので医療におけるグローバルな視点での考え方、地域社会との関わりについて考える能力を身につけたいです。部活動やサークルの活動からはマナーや知識を学び、社会生活へ生かせたらよいと思います。

私は同じ夢をもつ仲間と共に学べるということを大切にし、お互いを高めあっていけたらよいと考えます。また、大学生活を有意義に過ごせるかどうかは自分自身の判断によるところが大きいと思うので、何事にも自らで働きかけ、弘前大学の一員であることを忘れずに将来を見据えた行動をしたいです。



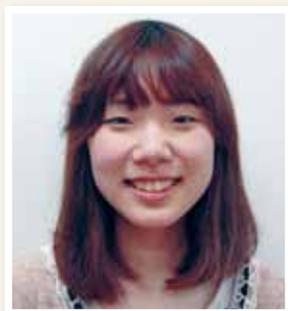
浅野 喬
医学部保健学科
放射線技術科学専攻1年

弘前大学生の一員になって

弘前大学に入学をして早くも1か月が経過しました。私が今とても強く感じていることは、かねてからの夢であった弘前大学医学部保健学科放射線技術科学専攻に入学して本当によかったということです。出身は北海道であり、新天地に期待をしながらも多くの不安がありました。ですがさまざまな人と出会い、いろいろな刺激を受けながら楽しく過ごしています。一緒に楽しく過ごしている友人や、入学当初から強い志を持ち勉学に励む友人、いろいろなことを教えていただき頼りになる先輩方、そして経済的に支援していただきまた精神面でも支えとなっている家族に心から感謝しています。

さて、私は放射線科に進学したためこれから4年間放射線技師になるため学ばなければなりません。ですが、医学的な専門知識だけでなく今後社会人として必要なさまざまなことを吸収し身につけていければいいなと思っています。今年1年は専門科目が少なく自由な時間もあるようなので入部した医学部バレー部で汗を流し、本業である勉強も怠らず、いろいろなことにチャレンジして東北の自然を満喫しながら有意義な大学生活を送っていききたいです。

大学生活の抱負



吾妻 優子
医学部保健学科
検査技術科学専攻1年

青森市から弘前大学に進学し日本一とされる弘前の桜を十分に堪能し、大学生となってから早1か月が過ぎました。弘前の街並みはやはり城下町ということもあり風情があり、落ち着いてすぐに慣れることができました。さて、学習面の方では保健学科全員で受ける人体形態学や機能学があり、私は医学部に入ったのだなと実感しております。また予習が必要不可欠であり、日々の予習をしっかりと行っています。また検査では物理・生物・化学が必修科目となっており、物理を高校時代学んでこなかった私は物理選択であった友人達に教えてもらい、また生物を教えるといった仲間との協力により後期の実験に向けて日々の研鑽に励んでおります。また、一度しかない大学生活の「今」を大事にしたいと思っています。まず臨床検査技師の国家資格を得ることや癌医療の専門職である細胞検査士を目指し日々努力するだけでなく、未来の医療を担う存在として人間性を豊かにしたいとも考えております。サークル内での他の学部学科を通じた出会いや同じ検査の専攻での出会いを大切にし同学年・先輩とともに豊かな大学生活にしていきたいと思っています。



佐藤 徳子
医学部保健学科
看護学専攻3年

大学生活のアドバイス

1年生の皆さんには後悔ない大学生活を送ってほしいと思うので、これを読んでもくれた新入生がなにか学ぶことがあれば幸いです。私の最初の1年は、初めての大学生活や一人暮らしに戸惑いばかりで、多くの時間を無駄にってしまったと思っています。初めはまず弘前の生活に慣れることが肝心です。そのためには積極的に行動して、自分で決断する習慣をつけるべきです。初めての場所に行ったり、会ったことのない人に会ったりするのは勇気のいることです。しかし何事も経験が大事で、それが私を大きく成長させてくれたと思います。大学生の時間というのはあっという間です。今だからこそお金や時間の管理ができていますが、2年生になるまではテストが近くなると基本的な衣食住がおろそかになったり、バイトを始めると大学よりもバイトが中心になったりします。高校までと違うのは自己決定の幅が広がることです。それが仇になるか、糧になるかは自分次第です。

富永 匡顕

医学部保健学科
放射線技術科学専攻4年

新入生に向けて

新入生のみなさんこの度は弘前大学へのご入学おめでとうございます。入学から1ヶ月が経過して、今までは異なった生活にも慣れてきたでしょうか。はじめは戸惑うことばかりだとは思いますが、大学生活での毎日は新しいことの発見がたくさんあるでしょう。ほとんどの人にとって、大学生活は高校の時とは違い自由な時間が多く、授業以外にも色々なことができます。勉強やアルバイト、サークルや部活動、ボランティア活動、長期休暇を利用した旅行などなど。これらの活動を通して多くの人たちと関われることで、これまでの自分には無かった新しい考え方や知識を得ることができます。また、そうすることで、コミュニケーション能力の向上にもつながります。そして、その経験と出会いが自分のこれからの財産になると思います。

失敗することは怖がらなくて大丈夫です。代わりにやってくれる人はいませんが、助けてくれる人は周りにいます。「失敗は成功のもと」というように、失敗なんて経験値と考えれば無駄ではないし、周りの助けはいくらでも借りるべきです。自分に合った大学生活の仕方を見つけて、やりたいことに挑戦し、大学生活を楽しんで下さい。

弘前大学へようこそ!!

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。大学での生活はもう慣れましたか？私自身、1年生のこの時期は初めての独り暮らしのため、ホームシックに悩んでいました(笑)まだ慣れないという方は、是非弘前を散策してみてください。色々な発見ができ、生活が楽しくなりますよ!!

新入生の皆さんに大学生活でやってほしいことが3つあります。

1つ目は様々な人との交流活動です。サークル活動などで、同級生や先輩後輩などと交流するとよいですよ。大学生活が楽しくなるのはもちろん、勉強面や進路面、生活面での助けになると思います。

2つ目は、勉強です。高校までと違い大学では自力で単位を取って進級、卒業しないとけません。普段から予習復習やレポートをやるのが大切です。友達や先輩から情報を集めて頑張ってください。

3つ目はバイトです。私はこれまで長期休みや連休に、塾講師や飲食店のバイトをやりました。これらを通して学んだことは沢山あります。人生勉強だと思って、是非やってみてください。短期バイトは色々な仕事が体験でき、お勧めです。

この文章が少しでも参考になれば嬉しいです。様々なことに挑戦して、充実した大学生活にしてください!!



相田 萌美
医学部保健学科
検査技術科学専攻3年

理工学部

新入生



臼田 拓人
理工学部
地球環境学科 1年

夢に挑戦

僕は幼いころから空を眺めることが好きでした。気象にかかわる仕事がしたいという強い想いがあり、遠方への進学ということで家族には心配をかけましたが、弘前大学に進学しようと決心しました。知り合いは誰もおらず、親元を離れた一人暮らしはとて不安でした。しかし、周りには同じような志をもった仲間がいて自然と友達もでき、下宿や部活などでは様々なアドバイスをくれる心強い先輩に出会えて不安はなくなっていきました。また、教授の講義は興味深いもので、思い描いていた大学生活が始まったんだと実感しました。人間関係の幅が広がり色々な経験が待っているこれからの日々がとて楽しみです。

大学での4年間、僕にはやりたいことがたくさんあります。そのひとつが気象予報士の資格をとることです。時間的に余裕があるこの時期に普通の生活を送るだけではもったいないと思うので、気象という自分の好きなことに夢になりたいです。日々の勉強や部活、予報士試験の勉強を両立するのは大変ですが、自分の夢に一步前進できるように頑張りたいです。

僕はたくさんの人に支えられて弘前大学に来ることができました。感謝の気持ちを忘れず、充実した大学生活にしたいです。

横向 大

理工学部
数理科学科 1年

夢へのプロセス

私は、将来県内での就職を考えているので弘前大学への進学を決めました。入学式から1ヶ月が経ち、同じ学科の方や、違う学部の方とも話せるようになってやっと大学生らしい生活が出来てきているのかなと思っています。これから4年間という長いようで短いかげがえのない時間を精一杯楽しみたいです。

私がこの学科を選んだ一番の理由として、将来教師になるにあたって数学を根本から深く学ぶ必要があると感じたからです。大学に入学するまでは数学はパターンで解いていましたが、大学の数学はパターンで解けるほど容易ではないことをすでに感じています。日々の講義を大切にしてい、理解を深めていきたいです。

私を含めて新入生の皆さんは、これから4年間、サークルやアルバイトなど、様々な出会いや経験があると思います。私のように目標が定まっている方もいれば、まだ将来どのようなことをしたいか定まっていない方もいるはずですが、目標が定まっていない方も、様々な経験を通して自分のやりたい事が見つかると思うので、焦ることなく大学生活を楽しんでほしいと思います。

最後に、4年間の大学生活は私にとって大切な夢へのプロセスです。後悔のない、充実した4年間にしたいです。

齊藤 航輝

理工学部
電子情報工学科 1年

新天地で

新しい生活、新しい仲間、そして何よりも自分が学びたい事を学べる。全てにおいて今までとは違う新しい環境に期待で胸を膨らませながら入学し、気付けばあっという間に一ヶ月が過ぎていました。今、私は多くの友人やサークルの先輩に囲まれながら、充実した毎日を過ごしています。

一ヶ月も経つと大学生活と一人暮らしにもそれなりに慣れてきて、家事や勉強・課題をこなしながらも自由な時間を楽しめるようになってきました。一人暮らしや大学生活は様々な物事を自分で決めて自由な生活を送れますが、それは同時に自分の判断でしっかりと物事を考え、自主性を持ち、自己責任で行動しなくてはならないということです。そういった意識は常にしっかりと持ちこれからも過ごして行きたいと思っています。

さて、この一ヶ月でも多くの出会いがあり同じ学科やサークルの友人も出来ましたが、それでも大学生活はまだまだ始まったばかり。これからももっともっと新たな人とのつながりや体験、目標等と様々な出会いが待っていると思います。そして単位を落としたりしないかなんて不安も、全く無いわけではありません。

これからの四年間を、勉強は勿論として大学生活の全てを楽しみ尽くして、弘前大学で良かったと最後まで思いながら卒業できるように頑張りたいと思います。



寺内 裕哉

理工学部
物質創成化学科 4年

自分らしい大学生活を

一年生の皆さん、大学での生活には慣れてきた頃でしょうか。高校までと大学とでの大きな違いは、自由度の高さです。例えば、起床時間や食事の内容、受ける授業など、些細な事を始めほとんどが個人の自由です。その中でも特に自分で決められるのは、時間の使い方です。大学では時間が空きます。大いに空きます。それをどう使うかは、勉強や部活動、その他趣味など人それぞれでしょう。そこで重要なのは、自分のやりたい事を思うままにやることです。友達や、周囲の人に合わせる必要はありません。たかが暇つぶしと思うかもしれませんが、自分が何をしたいかを考える、というのは自分を見つめ直すという意味でも大事な事です。自分の事をよく理解しておけば、例えば就職活動で自己アピールをする時などに役に立ちます。これまで、ずっと友達と一緒に行動してきた方は、一度独りになって自分の本当にしたい事を考えてみましょう。きっと新たな一面が見えてくると思います。大学生はかなりの自由が許されています。自分らしく過ごして、隠れていた個性や魅力を磨き上げ、彩りのある大学生活にしていきたいと思います！

楽しい大学生活を

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。自分は大学院生ですが、実は新規の入学生という点では同じ立場です。今年からここ弘前の大学院に入学しました。

みなさんはもうこの大学でやりたいことは見つかっていますか。目標があってきた人、これから見つかるためにきた人、他にもいろんなことを思って入学をしてきたことと思います。私は相対性理論を学ぶためにここへ来ました。小さい頃から宇宙に興味があり、深く知るための筋道を定め高校、大学を選んできてここまで来ました。とても難しい学問ですが、夢の実現と新しい知識が私を日々勉強へと駆り立てます。とは言っても、勉強ばかりしているわけではありませんが(笑)。やはりせっかくの大学生活、楽しく過ごしていただきたいです。なので、もしまだ目標が決まっていない人、とりあえず楽しく過ごしていくことを目標にしてみてくださいはいかがでしょうか。日々を楽しく過ごすための努力はとても大事なことだと思います。

これから過ごす4年間で培っていくものはきっとかけがえのないものになると思います。ですが楽しさを優先しすぎて単位は落とさないようにしてくださいね。後々きつくなって楽しみが減るのは自分なんですから。

久我 拓史

理工学部
知能機械工学科 4年

新入生のみなさんへ

新入生のみなさん、ご入学おめでとうございます。そろそろ大学生活にも慣れていく頃でしょうか。

私がこれまでの大学生活を振り返って大切だと思うことは、人との交流を大事にすることです。大学ではサークルやバイト、ゼミなど多くの人と交流する機会があります。その出会いを大切に自分の世界を広げていてください。また、昔の友人との交流も大切にしてください。他の大学の人や就職した人など、違う環境に行った友人たちの話を聞くことはよい刺激になり、自分を見つめなおす良い機会になると思います。

次に、大学は楽しいことがたくさんありますが、勉強はしっかりやりましょう。勉強をおろそかにしていたら他の活動にも影響が出てしまい、楽しみが減ってしまいます。それから他の学科もあまり変わらないと思います。基本的に研究室への配属は成績順になります。自分のやりたいことをできるように頑張りましょう。また、自分の希望通りにならなくても悲観することはありません。そこで頑張ればちゃんと評価してもらえ、ここで良かったと思える瞬間が来ると思います。

大学生活は本当にあっという間です。時間を有効に使い充実した生活を送ってください！

鈴木 裕介

理工学研究科
物理科学コース 1年

農学生命科学部

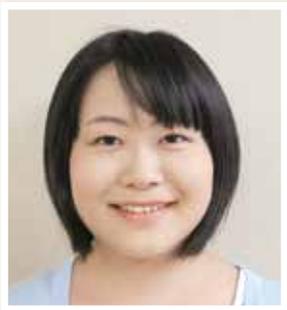


白川 詠理
農学生命科学部
分子生命科学科1年

弘前大学の一員になったことについて

春から弘前と言う新たな地でひとり暮らしを始め約1ヶ月が経ち、大学生活にもやっと慣れてきました。18年間何不自由なく過ごして来た札幌とは違い、弘前は不便だ、という印象を受けたのが本音です。その上何もかもが一からのスタートで、この弘前という地でやっていけるか大きな不安もありました。そんな時、母から聞いた「人間とは、その人が今までの人生の中で会ったすべての人の総和である。」という言葉があります。この言葉に私は随分救われ、そしてこれからの大学生活や日常すべてにおいて前向きに捉えられる活力となりました。

私は化粧品の開発を目指して分子生命科学科を志望しました。化粧品と言っても、単に容姿を整えるためのものだけでなく、火傷や交通事故による怪我で皮膚に裂傷を被った際の治療法として近年注目されている再生医療の化粧品です。また、優れた吸湿性を持つ高分子ポリマーを用いた研究や、目覚ましい発展を遂げている科学技術の研究にも興味を持っています。更に、関心のあるバイオテクノロジーと免疫学、糖鎖工学をも学べることから分子生命科学科を志望しました。1年生の前期は殆ど教養なので専門を学ぶのはまだ先の話になりますが、日々の積み重ねを怠らず、有意義な大学生活を送りたいと思っています。



高村あゆみ
農学生命科学部
園芸農学科1年

弘前大学に入学し、期待と不安を抱きながら新たな生活が始まりました。大学に通って約1か月間、まだまだ慣れないことばかりです。高校とは全く違う講義形式や自由度の高いサークル活動、どれも今までとは違った自主性が求められます。そのことに私は大学へ来た一つの意義を感じました。高校までは授業や部活動に大きな枠組みがあり、自由に決められることなんて限られています。しかし大学では個人の考え方によって過ごし方は様々です。私は自らが積極的に興味、関心のある分野に取り組むことの必要性を感じました。しかし正直今は講義やサークル活動についていくのでやっとです。高校とは大きく変わった環境にとまどいはありますが、友人や先輩方と助け合って早く大学生活に慣れたいと思います。また、様々なことに積極的に関わっていれば本当にやりたいことを見つけたり、今描いている目標もより確実なものになっていくかもしれません。これからの4年間は自分の将来においてとても大切なものになると思います。大学生活が有意義だったと思えるように今のこの気持ちを忘れずに、日々の活動に積極的に取り組んでいきたいと思っています。

新入生



村上 遼馬
農学生命科学部
生物資源学科1年

弘前大学の一員になって

私は今、大学生になったことを日々実感している。自分で履修登録を済ませ、たくさんの講義を受けたり、サークルに参加して、たくさんの人に出会い仲良くしてもらったり。高校では味わうことのできなかった充実した日々を過ごしている。そんな日々を私はもっと楽しく充実したものにするために、いろんなことに挑戦していきたいと考えている。また、その経験から自分をスキルアップさせることができるのではないかと考えている。

私は植物育種の分野に興味がある。これから世界は人口の増加や異常気象により食糧不足問題がさらにひどくなると思う。そこで必要となってくるであろう育種技術の知識をこれから学びたいと考えている。ただ、実際に講義を受けてみるとさらに興味が広がった。これから何度も講義を受ける中で自分が一番やりたいものを見つけたいと思っている。

弘前大学にはたくさんのサークルがあり、どのサークルも楽しそうだ。時間に余裕ができたならひとつだけではなく、いくつものサークルに入りたいと考えている。

せっかく入学できたのだから、教員や先輩にアドバイスを頂いたり、同じ学年の仲間と協力して、弘前大学の一員として胸を張ってキャンパスライフを送りたいと思っています。

大学生になってみて

在学生



大江 暢子
農学生命科学部
地域環境工学科4年

新入生の皆さんへ

新入生の皆さん、ご入学おめでとうございます。新しい環境に慣れ、落ち着いてきたところでしょうか。

私も3年前は、気がおけない友人が一人もない新天地での生活の始まりに、期待だけでなく、大きな不安と緊張を抱えていました。それに加え、1年生の講義は専門教科が少なく、同じ学科の学生と話せる機会があまり得られませんでした。そんな私が、すぐに新生活に馴染むことができたのは、サークル活動に参加したおかげです。私は、1年生の時から「りんごの会」というサークルに所属しており、このサークルでの活動を通じて、先輩・後輩、そして友人と繋がりを持つことができました。

「りんごの会」では、附属農場からりんごの木を数本借りて、春から秋にかけて木のお世話をし、収穫したりんごは、文化祭で販売しています。りんごの栽培を通じて、りんごに対する知識だけでなく農業のノウハウも学ぶことができ、また文化祭では、アップルパイなどのお菓子作りを経験することができます。

ぜひ、皆さんもサークルやバイト・ボランティアなど、勉強以外でやってみたいことを見つけて、どんどん挑戦してみてください。皆さんの大学生活がより良いものになりますように。

渡邊 雪絵

農学生命科学部
園芸農学科3年

楽しい大学生活を！

2年前の春、地元を離れ不安な気持ちで弘前での新生活をスタートさせた私も、気が付けば3年生になっていました。あっという間に時間が過ぎてしまう大学生活ですが、良い意味で欲張りになることでより充実したものになるのではないかと感じています。授業がある日でも時間割によっては自由時間が確保でき、加えて約2か月間の長期休みが年に2回ありますので、自由に使える時間が本当に多いです。引っ込み思案な私は好奇心を行動に移すまでに時間をかけてしまうことが多いのですが、新入生の皆さんは「やりたいと思ったことは全部やる！」くらいの気持ちでちょうどいいのだと思います。趣味やサークル、旅行など、好きなことに打ち込みましょう。

そして、個人的には学業に支障のない程度にアルバイトをすることもお勧めします。普通の大学生活ではあまり接点のない人と関わることで新たな交友関係を築けますし、働いてお金を稼ぐことの苦勞と達成感を身をもって感じるすることができます。

ここまで余暇の使い方の話しかしていませんが、一番大切なのはもちろん学業です。好きなことを好きなだけ学びながら、自分なりのスタイルで楽しい大学生活を送ることができたらいいですね！

原 隆志

農学生命科学研究科
農学生命科学専攻1年

好きこそものの上手なれ

大学にはランクがあり、上はいくらでもあります。そんな中、貴方は弘前大学に来ました。それぞれに事情があったのだと思います。ですが、それに甘んじてはいけません。とてももったいないです。

4年間はあっという間です。「入学したばかりでそんなこと」と思いますか？ でしたら、貴方の高校3年間の思い出してみてください。大学生活の期間なんて、それに毛が生えた程度です。終わってみたら、うたかたの日々でしたよ。くそっ。

しかし、貴方はこの4年間で何でも出来ます。なぜなら、貴方はもう大人だからです。大学に入って、貴方は自己責任と自由を手に入れました。大学のルールに則る限り、貴方はなんでもできます。やりたいことをやらないのは損です。そして、忘れないで下さい。貴方が本気になれば、すべてが選択肢です。研究者だろうと、聖職者だろうと、作家だろうと、何にでもなれます。大学は、それが可能です。この4年間は、そのシンキングタイムのようなものです。たくさん学んで、たくさん遊んで、貴方の最高の選択肢を見つけ出してください。

4年後の貴方が、何かを成し遂げ、誰よりも眩しい笑顔で卒業していることを願っています。

各研究室をクローズアップ

准教授
高島
克史人文学部
経営学コース実践教育を通じた経営リテラシーと
ジェネリックスキルの養成

経営学コースは、平成17年に人文学部の教育課程再編によるコース制導入により誕生しました。現在、経営学コースには2年生から4年生まで200名近い学生が在籍しています。経営学コースでは、企業および非営利組織の経営に要求される専門知識・思考、分析判断力の習得、ビジネス社会で不可欠な課題発見力と課題解決力を高める教育を進めています。それを通じて、企業等の営業部門・国際部門・経理・財務部門、自営業、会計専門職として活躍できる人材の育成をめざしています。

そのために、組織に必要なヒト・モノ・カネ・情報といった経営資源を活用する知識や思考を学び、組織が公表している財務諸表を読みとって、経営理念や戦略を理解できるようになる必要があります。そこで経営学コースは、積み上げ式の教育カリキュラムを組んでいます。つまり、学年順に入門・基礎・発展といった順に科目を配置し、この順に従って履修することで経営の基礎的な知識や思考を習得していきます。また体系的かつ深く学習できるように、経営系コース科目と会計系コース科目といった小分類も設けています。

経営系コース科目では、企業や非営利組織を対象に、経営に必要な経営資源をどのように活用すれば成果が期待できるのかといった基本的知識について

事例や理論研究から学びます。現在、この経営系のゼミは、マーケティングゼミ（保田宗良教授）、グローバル経営ゼミ（森樹男教授）、経営組織ゼミ（大倉邦夫准教授）、経営史ゼミ（恩田睦講師）、経営管理ゼミ（高島克史）の5つあります。経営系列で専門的な教育を受けた学生の多くは、民間企業や地方公共団体で、主に営業・商品開発・人事部門などで活躍しています。

会計系コース科目では、企業や非営利組織などの開示情報がどのようなルールにもとづき作成されているのか、またその内容はどのように解釈するのか学びます。組織行動との関連性を考えながら財務諸表を読む力を養います。現在、会計系列のゼミは、簿記システムゼミ（加藤恵吉教授）、会計学ゼミ（内藤周子准教授）の2つあります。会計系で専門的な教育を受けた学生は、地方公共団体や企業の経理・財務部、公認会計士などの会計専門職、国税専門官として活躍しています。

ところで、経営学というと「金儲けの方法」「モノの売り方」などを学ぶところという誤解を受けることがあります。しかし、経営学はそのようなスキルやノウハウを学ぶ学問ではありません。そもそも、実際の経営には唯一最善の正解がありません。そのため

経営学コースで学ぶ学生は、基礎的な知識だけでなく、自分なりの経営スタイルや考え方といった経営リテラシーを身につけなければなりません。経営学コースではより実践を意識したビジネス・シミュレーション実習Ⅰ・Ⅱ・Ⅲという実習科目の運営に力をいれています。

本科目は、従来の講義形式とは異なり学生が主体となって取り組む、いわゆる課題解決型学習(PBL: Project-Based Learning)を取り入れています。具体的には「地域企業との対話を通じて培う企画提案力」というテーマのもと、青森県内の企業が抱える経営課題を素材に、学生の企画提案力を育成するとともに、学生のたてた企画提案が地域企業の活性化や地域における雇用機会の拡大につながることを目指しています。

本科目は基礎編であるビジネス・シミュレーション実習Ⅰと応用編であるビジネス・シミュレーション実習Ⅱ・Ⅲの2つからなります。

ビジネス・シミュレーション実習Ⅰは2年生以上を対象としています。主に、学生がビジネスプランを企画提案するために必要な基礎知識を学習したうえで、実際のビジネスプランの作成を想定した企画提案書の作成方法やプレゼンテーションの作法を学びます。本科目の特徴は、ビジネスの現場に身をおく実務家から直接レクチャーを受け、ディスカッションすることによって基礎知識と実践的な思考を身につけることができる点にあります。

ビジネス・シミュレーション実習Ⅱ・Ⅲは3年生以上を対象としています。本科目は、ビジネス・シミュレーション実習Ⅰで得た知識や思考と、講義などで学習した専門知識をもとに青森県内の地域企業が抱える経営課題を学生なりの視点で理解・調査・分析してビジネスプランという形で解決策を提案します。過去には、「弘前市をアピールできるようなお土産袋の開発」「弘前の秋・冬の観光プラン」「赤いリンゴを使った新商品開発とその販路開拓」などといった課題に取り組んできました。商品開発の場合には、主な購買層を想定する必要がありますし、競合品があれば「強み」と「弱み」を把握する必要があります。このように、講義や実習科目で学んだ知識や思考を実際に経営の現場で活用していくことで経営リテラシーが養成されていくのです。

もちろん、単なる思いつきや独りよがりな解決策になってはいけません。学生には、自らの解決策の有効性をアンケート調査や試作品の制作・販売などの方法によって市場で検証することが求められます。学生は、解決策の提案(Plan)だけでなく、提案の検証を通じた最終提案(Do-Check-Act)といった一連のPDCAサイクルを経験します。これを通じ

て、学生の対人関係能力やコミュニケーション能力を向上させることも意図しています。

なお、本講義はⅠ・Ⅱ・Ⅲすべてにおいて、1グループあたり学生5名のグループワークで実施しています。ビジネスプランの作成や検証作業はすべてグループ単位で行われます。データ収集のため文献調査だけでなく、ときに大学の外に出てフィールドワークにも取り組みます。そこで得られた情報をもとに、学生同士で議論を重ねてビジネスプランを練り上げていきます。また定期的に連携企業先と情報共有や意見交換をしていく中で、企業側の想いや課題の理解を深めます。このようにして活動に取り組んでいくために、学生は受け身の姿勢ではなく、積極的な姿勢になることが求められます。もちろん、自ら調べ、ほかの学生や学外の方々とは議論し、相手に分かりやすく説明するというプロセスを何度も繰り返すことで、主体的に物事を考え、行動するという力が身につけていきます。

本科目を履修した学生の成長は、大卒者として社会で求められるスキルである社会人基礎力やジェネ



リックスキルを測定するテストで定期的に確認しています。個人差はありますが、ほとんどの学生は、ビジネス・シミュレーション実習Ⅱの履修前と同実習Ⅲの履修後で、リテラシー能力(知識を活用して問題解決する力)とコンピテンシー能力(経験を積むことで身につく行動特性)ともに大きく向上しています。また、本科目を履修していない学生と比べてみても総じて高い能力を持っていることが数値的にも示されています。このように、ビジネス・シミュレーション実習はうまく軌道に乗っていますが、今後も地域社会に必要とされる人材を少しでも多く輩出できるよう、私たち経営学コースの教員は一丸となって努力してまいります。



私は、現在アメリカのメイン州にあるメイン州立大学 (University of Maine) に留学しています。今回の海外便りでは、私が住むメイン州オロノ市、大学生活、寮生活、授業、サークル活動について紹介していきたいと思います。

メイン州は、アメリカのニューイングランド地方の最東部にあります。冬のメイン州の天候は、弘前市の大荒れの日を想像してもらえれば良いと思います。メイン州で有名なものといえば、ロブスターやブルーベリー、ムース(という珍しい動物)、ブラックベアなどです。アメリカはとても広いので、大都市以外は車が無いと移動が不便です。オロノ市も例外ではありませんが、メイン州立大学の語学学校で毎週末、企画されるアクティビティに参加することでその広大な自然を、思う存分楽しむことができます。

メイン州立大学は本当に大規模なキャンパスで、弘前大学の2倍以上の敷地面積はあるのではないかと思います。ジムや図書館、劇場、植物園などの大学施設が充実しており、ほぼ毎週何らかの行事が催されています。

4月末には、Maine day という文化祭があり、多くの学生がパレードに参加したり、構内清掃をしたり、お花を植えたり、無料のバーベキューを楽しんだり、資金募集イベントに参加したりします。私も、その日には、資金募集イベントの一つであるOozeballに参加しました。Oozeballとは、泥の中で行うバレーボールのことで、参加費6ドルで、泥だらけになって、バレーボールをします。物珍しさで参加しましたが、とても面白かったです。

3月から5月までの約2か月間、大学のヨーク寮で生活しました。ヨーク寮では多くの留学生が生活しています。私は2人部屋に住んでいましたが、ルームメイトが居なかったので、運よく1人で2人部屋を使うことができました。寮には、暖房が完備され、シャワー室兼トイレ、無料wifi、洗濯機、乾燥機、卓球台やビリヤード台などがあり、寮費は高めでしたが、快適に過ごす事が出来ました。ヨーク寮にキッチンは無かったので、いつも大学の学食を利用しました。メイン州は海沿いの州なので、海産物が新鮮でとても美味しいです。

メイン州立大学の約半数の学生は寮で生活し、残りの半数の学生は大学の外で生活し、車や自転車、



アメリカ留学

農学生命科学部 園芸農学科3年 平山 有紀





バスなどで通学しています。車を所有している学生は多く、授業日は、日本のアウトレットモール程の規模の大学駐車場が車で溢れます。

私は大学内の語学学校 (IEL-Intensive English Institute) で、英語を学んでいます。この学校には、アメリカ人とイギリス人の先生と中国人のコーディネーター、そしてイラン人、サウジアラビア人、中国人、日本人、メキシコ人の学生が在籍しています。それぞれの宗教、文化、母国語が異なっているため、学生全員が魅力的です。クラスは、リスニング、リーディング、ライティング、総合英語があり、全クラス共に在籍学生は約 10 人です。先生方は親切なので、授業中でも気軽に質問が出来ます。現在は、リスニングのクラスを履修しています。渡航直後は、スピードの速い英語を全く聞き取る事が出来ませんでした。現在では友人と円滑にコミュニケーションが取れるようになりました。語学学校での学修の成果が現われてきていると思います。

9月に始まる学期からは、大学の正規の授業を履修します。履修可能な授業は基礎科目の授業ですが、全て英語で学ぶとなるとかなり難しいようです。また、履修科目は確定していませんが、自分の専門分野が農学なので農学あるいは食品科学に関する授業を履修しようと考えています。

メイン州立大学には、弘前大学と同じくらいかそれ以上の数のサークルがあり



ます。私は、coffee hour という、弘前大学のクロスカルチャークラブに似た、留学生が集うサークルに参加しています。このサークルはメイン州立大学に在学中の留学生によって組織されており、留学生が出身国についてのプレゼンテーションをしたり、展示をしたりしているの、毎回興味深い体験をすることが出来ます。私も、資金募集イベントの一環で、ネパール出身の留学生が行っていた、ヘナという数週間で消えるペイントを施してもらいました。これも、多国籍なアメリカならではの貴重な経験の一つではないかと思います。



私の留学生活はまだ始まったばかりですが、既に沢山の魅力的な方々に出会い、様々な経験をすることが出来ました。これらは、きっと今後の自分に良い影響を与えてくれる事でしょう。私がメイン州立

大学に留学を決意した理由は、より発展的な英語を肌で感じ、自分の専門分野についての知見を広げるためでしたが、今ではそれに加えて、留学後までに社会人基礎力が備わったより魅力的な人材になりたいと考えています。

留学前は、留学するかどうか悩んだ時期もありましたが、現在はメイン州立大学に留学して正解だったと感じています。留学しようかしまいか、あるいはどこに留学しようか悩んでいる人がいたら、間違いなくメイン州立大学に留学することをお勧めします。



New Faces ! 新任教員自己紹介

COC推進室 助教 野口 拓郎

この度、弘前大学COC推進室の助教兼コーディネーターとして着任致しました野口拓郎と申します。

COCとはCenter Of Community（地の拠点）の略でして、大学が地域と連携をし、全学的に地域を志向した教育・研究・地域貢献を進める事業です。

残念ながら青森県は全国的に見て過疎化が特に進んでおります。

COC事業を通して、大学と地域のポテンシャルを最大限引き出し、過疎化の波を食い止める一助となるよう全力を尽くしたいと思います。



COC推進室 助教 西村 君平

2014年度3月よりCOC推進室に助教として着任いたしました西村君平です。日本社会は、地方から首都圏への人口流入、それに伴う地域経済の停滞・地域社会の空洞化といった難題を抱えており、COC（Center of Community）事業は、この難題の解決に資する人材を、大学をあげて育てようというものです。若輩者ではございますが、COCの成功および弘前大学の発展のために尽力致します。今後ともよろしく願い申し上げます。

医学部附属病院 講師 山本 祐司

専門領域はスポーツ整形外科、膝関節外科、人工関節手術です。整形外科の専門外来のうち「スポーツ外来」、「関節外科外来」、「先天性股関節脱臼外来」を担当しております。また、サッカーのアンダーカテゴリー日本代表チームのドクターとしても活動しています。U-23日本代表ドクター（2011-2012年）、U-19日本女子代表ドクター（2013年）を経て、今年からU-15日本代表ドクターとなっております。



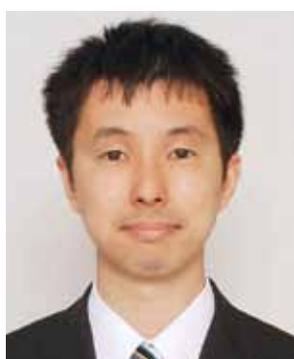
医学研究科 教授 山 村 仁

平成27年4月から救急・災害医学講座に赴任致しました。専門は救急医学、外傷診療、災害医療です。救急医学は疾病や外傷などあらゆる疾患を対象とする学問で、ジェネラリストとしての側面に加え、人の命を救うという急性期診療も行います。命を救うために事故や災害の現場に行き、そこで診療を行うこともあります。救急医学に関する教育を充実させ、皆様が救急に興味を持てるように努力します。どうぞ宜しくお願い申し上げます。

理工学研究科 教授
野 尻 幸 宏



4月に理工学部地球環境学科に着任しました。国立環境研究所で34年にわたり地球化学研究を致しました。1990年代以降は、二酸化炭素やメタンなど温室効果ガスの地球物質循環を中心としてきました。現在、人為起源二酸化炭素の大気増加とその海洋吸収に関する観測的研究、その結果として海洋生物が受ける海洋酸性化の影響研究を、国内外の多くの研究者と共同で進めています。大学では若い人材の育成にも力を入れて行きたいと思えます。



理工学研究科 助教
太 田 俊

2015年4月1日より、理工学研究科物質創成化学コースに着任いたしました。専門は錯体化学です。学生時代より一貫して空気中で発火するほど反応性の高い遷移金属錯体の合成に携わって参りました。

本学では、これまでに培ってきた無機合成技術を活かした物質変換反応にチャレンジしていきます。

まだまだ未熟者ではありますが、弘前大学のさらなる発展に貢献できるよう、全力で取り組んでまいります。よろしくお願い致します。

男女共同参画推進室 助教
山 下 梓



本学では、性別にかかわらず誰もが「まなびやすく働きやすい」環境の実現に向けて、さまざまな取り組みが行われてきました。私は、取り組みを継続・発展させるべく着任しました。学生を対象とした事業もありますので、男女共同参画推進室HPをご覧ください。

研究テーマは、レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランス、インターセックスの人々の国際人権法上の人権保障と災害時のニーズ等です。どうぞよろしくお願い致します。



理工学研究科 准教授
紙 川 尚 也

平成27年4月に理工学研究科に着任しました。私は兵庫県出身です。高校卒業まで兵庫県で過ごし、大学時代は大阪で9年間過ごしました。学生時代に一度だけ弘前ねぶたまつりの折に弘前を訪れたことがあります。当時はまさか、将来弘前大学に勤務するとは夢にも思っていませんでした。これからは、弘前大学のため、青森のために、教育・研究・地域貢献活動に従事して参ります。どうぞよろしくお願い致します。



文部科学省
地(知)の拠点

弘前大学が行う大学開放

弘前大学が、あなたの「学びたい」を実現します。



弘前大学

グリーンカレッジ

平成27年10月より開校 第一期生募集!!

弘前大学グリーンカレッジへようこそ



このたび、弘前大学では、地域のみなさんの「学び直し」や学生と一緒にサークル活動などキャンパスライフを過ごしていただく場として、「弘前大学グリーンカレッジ」を開校いたします。

地域のみなさんとの共学・交流が本学学生にとっても大きな刺激になるものと期待しております。

弘前大学で、若い学生らとともに大学の知にふれてみませんか。この秋にキャンパスでお会いできることを楽しみにしております。

弘前大学長 弘前大学グリーンカレッジ校長 佐藤 敬

募集説明会のお知らせ

募集に先立って、下記の日程で募集説明会を開催します。

日時：平成27年7月10日(金) 10:30～
場所：弘前大学附属図書館3F ラーニングcommons
ご来場の際は、公共交通機関をご利用下さい。
バス：弘前駅前3番のりば小栗山線「弘前大学前」下車



GC GREEN COLLEGE

弘前大学グリーンカレッジについてのお問い合わせ、お申込みは

弘前大学 学務部教務課 教務企画担当 TEL: 0172-39-3709

〒036-8560 弘前市文京町1番地 総合教育棟1階

Mail: jm2108@hirosaki-u.ac.jp



「学びたい」に応える、8分野の授業科目。

1科目は、1授業（90分）×15回です。本学学生と一緒に受講します。



「人文知」へのアプローチ

長い年月をかけて培われた「英知」の結晶にふれる。

- 言語学：国語学史（漢字・仮名・方言）
- 日本考古学：縄文文化とその社会の多様性
- 民俗学：民俗学の術語の説明と研究史



art を体感する

芸術を感じる心、それは人が人であることの証。

- 音楽人類学 ■ 美術史：イタリア美術史
- コンピュータグラフィックス：2次元CGの基礎・技術 ■ 美術実技・演習 石彫・陶芸・彫刻
- 絵画表現：日本画・西洋画



経済とビジネス

現代社会をリードする、経済活動の動きを読む。

- グローバル経営：日本企業の海外進出
- 農業経営：日本の農業（りんご産業を中心に）
- 企業経営：地場企業の経営と地域ブランド



教育：人を育む

子供・青少年の「こころ」と「体（からだ）」。

- 青少年問題：青少年と学校、仕事
- 子供の健康：健康・肥満と運動



からだ・健康

わたし自身と家族を守るために、必要な知識を。

- 女性と身体：女性としての身体機能・母子保健
- 救急災害・医学：救急医学史と救急医療体制



もう一度「科学」

日常では学ぶことが難しい、科学の世界へ再び。

- 化学の基礎：有機化合物の構造と合成
- 地学の基礎：火山・地震・気象/地球の活動・地殻の形成と進化
- 自然地理学：身近にある地形・東北地方の地形



「農」を考える

わたしたちにとって必要不可欠な、生命のみなもと。

- 農耕と作物：イネ・畑作物・野菜栽培
- 農業気象学：農地と気象環境
- 農村計画：農村文化・農村計画



コミュニティ・デザイン

「人と人とのつながり」を考える。

- 都市論：地方都市と都市政策
- 雪国学：雪国の活性化・まちづくり



文化の街 弘前で、豊かなキャンパスライフを。



文京食堂「Forest」で学食。



イングリッシュ・ラウンジで生きた英語を学ぶ。

- カレッジ学生証を交付します。
- 開放科目の受講ができる他に独自科目として弘前大学長の講演や学長を囲む交流会などが用意されています。
- 附属図書館、大会館、イングリッシュラウンジ、自学・自修室など、弘前大学キャンパス内の様々な施設が利用できます。
- 学生と一緒にサークル活動や総合文化祭、シンポジウムなど大学で行われる行事への参加ができます。

第一期生は入校料及び受講料（平成27年度後期分）は無料です（モニター生としてアンケートなどにご協力いただきます）。

カレッジ入校から修了まで

- 【申込方法】 入校を希望する方は、所定の申込書に記入の上、本学に郵送にて提出してください。募集案内・申込書は、募集説明会にて配布するほか、本学ウェブサイトよりダウンロードできます。申込期限：平成27年8月21日（金）まで
- 【入校決定】 面談及びレポート（志望動機）などを参考に、入校を決定します。
- 【授業開始】 平成27年10月1日（木）
- 【修了】 カレッジ学期（前期および後期）において、開放科目をそれぞれ1科目以上受講し、修了すること。

活動助成団体採択書交付式を実施
弘前大学学生ボランティア

学内外でボランティア活動を実施している本学課外活動団体への活動助成費採択書交付式を、6月17日（水）事務局2階特別会議室で行いました。

交付式では、学長から今年度申請のあった8団体の各代表者1人ひとりに、活動助成費採択書が手渡されました。

佐藤学長から、「皆さんが日頃、弘前大学を代表してボランティア活動に携わっていることを讃えるとともに感謝している。活動をしていくうえで、予想外の場面に遭遇することもあるでしょう。このように多様な経験の積み重ねをとおして更なる発展を期待している。今後もボランティア活動させてもらえるという感謝の気持ちを忘れないように、活躍してください。」

と学生の今後の活動に対する期待を祈念する言葉が贈られました。

交付式に続いて懇談会が行われ、各団体代表者から、普段から困っていることや大学に応援して欲しいことなどを中心に、忌憚のない意見交換が行われ、今後の学生ボランティア活動支援体制の充実を図るためのヒントを得ることができました。

団 体 名	申請代表者名
児童文化研究部KIDS	石 塚 亮 太（農学生命科学部）
僻地教育研究会	北 上 知奈里（理工学部）
さくらボランティア	葛 西 築（教育学部）
ひまわりサークル	佐 藤 徳 子（医学部保健学科）
環境サークルわどわ	高 田 将 司（理工学部）
teens & law	千 葉 菜 々（教育学部）
アダプテッドスポーツサークル爽～so～	寺 嶋 あさ美（教育学部）
キャリアサポート研究会	海老名 晶 弓（教育学部）



時間はいつも同じように流れ過ぎていくが、時代は変わりながらいつか大きな違いとして認識する時がくる。私が入学した当時は、インターネットや携帯電話はなかった。今ではパソコンやスマホが当たり前で、その生活に慣れてしまっているの、思い返してみても、ようやく時代の変化を感じ、いろいろと感慨深い思いをする。

こと大学時代の数年間も学生たちにとっては、大変革の時期と思う。新入生は在学生に刺激を受けながら、またいろんな人を参考にしながら大人になり、在学生は新入生に対して先輩風を吹かせながら、成長していく。

編集後記



そこで、在学生には入学時の頃を思い返す時間を作って欲しいと思う。そして自分の変化を感じて、本当に育っているかも考えてみて欲しいと思う。更に成長するためにも良い機会と思う。

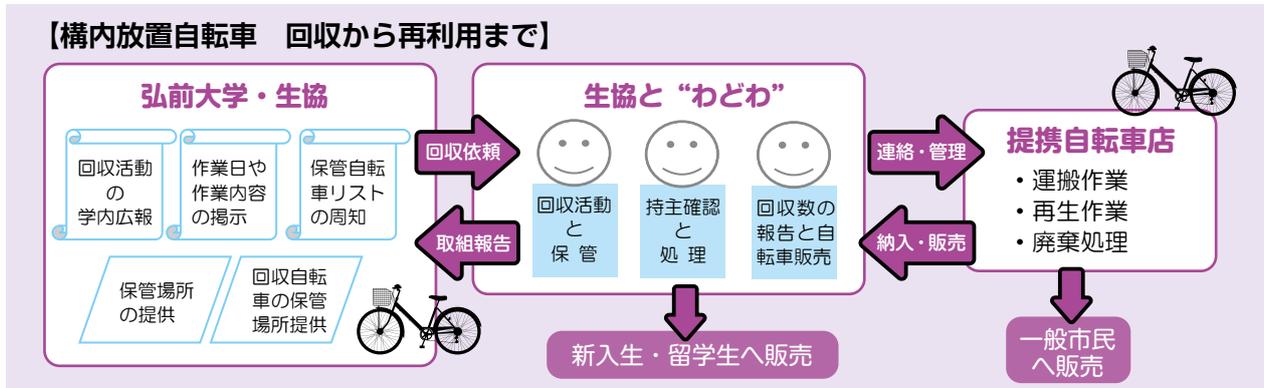
本号の特集に「新入生と在学生の声」もある。学生はもちろん我々も当時のことを思い出すよい機会になると思う。だから「学園だより」を手にとって、時代の変化を感じとってみるのも楽しいのではないだろうか。

写真は埋め立てられた内堀からの弘前城と石垣。時代の変化の一部を撮ってみた。

（もう_あら_フィフ）

弘大生協は学内放置自転車のリサイクル活動に取り組んでいます

弘大生協では、弘前大学より委託を受け学内に放置された自転車の回収、リサイクル、販売を実施しています。毎年、弘大生協学生委員会と環境サークル「わどわ」の学生が中心となり、KES 推進委員会活動の一環として大学の協力を得ながらリサイクル活動に取り組んでいます。



昨年回収をしてリサイクルした自転車は、今年4月9日（木）に開催した「フレッシュフェスタ」にて販売を行いました。購入のために朝からたくさんの来場があり、行列ができるほどでした。結果、175台を販売しました。

学生総合共済 給付事例

弘前大学生協では、毎月の学生総合共済給付事例を Horest 前に掲示しています。

【けがの事例】

- 裸足で部屋を歩いているときつまづいて転倒。左足指を骨折。
通院9日・固定具あり。 ¥78,000 給付
- 口を噛んで腫れた。粘液のう胞。
手術1回 ¥50,000 給付

【病気の事例】

- のどが腫れた。扁桃炎。
入院3日 ¥30,000 給付



お問い合わせ先：
0172-37-6480
(弘大生協 たび shop)

(写真) リサイクル自転車を選ぶ新入生



【お知らせ】アルバイト紹介は生協で

弘前大学生協のホームページでは、アルバイト求人を日々更新して掲載しています。アルバイト研修会も開催していますので、詳細は、以下URLでご確認ください。

<http://blog.hirosaki.u-coop.or.jp/arbeit/>



【お願い】生協内製弁当の容器回収にご協力ください

弘前大学生協では弁当容器のリサイクルに取り組んでいます。弘大生協の店舗で販売している内製弁当（丼、幕の内）の容器は、販売の際にデポジット容器代として10円をお預かりしています。容器を各店レジに持参すると10円が返却されます。ごみによる環境負荷を少しでも減らすため、容器の回収にご協力ください。

生協内製の「幕の内弁当」の容器も、デポジット対象です。



食後の弁当容器



容器のシールをはがす



できあがり！
お店に持っていきこう！

弘前大学生協生活協同組合



弘前大学 学園だより
Vol.184



HIROSAKI
UNIVERSITY

国立大学法人 弘前大学「学園だより」編集委員会

委員長 荷見 守義（教育委員会）

委員 細矢 浩志（人文学部）

山田 史生（教育学部）

松谷 秀哉（医学研究科）

工藤 幸清（保健学研究科）

小菅 正裕（理工学研究科）

坂元 君年（農学生命科学部）

澤田 祐子（学生課）

粕谷 常好（学生課）

印刷：コロニー印刷